グループホームふる里の風運営推進会議議事録

H30.3.15

■参加者
中村氏(入居者家族様)
高島氏(町内会長)
佐々氏(民生委員)
坂井氏(新庄地域包括支援センター　センター長)
四津川　泰司(グループホーム「ふる里の風」管理者)
伊井　幸美(グループホーム「ふる里の風」ケアマネージャー)

■日時・場所
3 月 15 日(木)13：00～　グループホーム「ふる里の風」

■内容
・現在の利用者様状況報告(入居状況、介護度、体調面等)
・1～3 月活動報告
・感染症に関して
・認知症カフェ
・次回開催日

■意見・発言等

	意見・発言	グループホームからの回答
中村氏	家族として認知症カフェで「地域の相談窓口」であるということはすごくいいことだと思う。 家族としては、少し記憶の混濁がある程度だが、他の人からは「認知症」の人という見方をされてしまう。 困っている家族様は多くおられるので、そういった人たちの相談窓口となって欲しい。 グループホームには感謝している入居者本人様から「退屈しない」と言っていただいた。	四津川「こちらとしても本当にありがたいお言葉で感謝しかないです」
佐々氏	季節感のあるレクをされていて、楽しそうだがそれを入居者様は何処まで覚えているのか。	四津川「やった事は忘れられるが、楽しいという感情は残る」「この場所は居心地が良いという感覚を持っていただくために必要なこと。」
高島氏	認知症カフェの告知方法に関して、町内会が今回は関われなかったが、今後も社会福祉協議会、自治振興会主導で告知していくのか	坂井氏「告知方法に関しては今後検討していきたい」

坂井氏	2/5 ワールドカフェをして、その際にデイ管理者が「オムツをどこで販売しているのか」等の質問を受けた。 地区センター、グループホーム等地区の相談窓口は多い方が良い。	
村野氏	感染症の「隔離」に関して 国で定められている基準に沿って、どうしても必要な際は家族様の同意をいただいて実施させて欲しい。	中村氏「身体拘束という言葉は家族の立場から止めてほしい」「感染症に関する隔離に関しては、理解しています」

■総括

認知症カフェを初めて実施して、そのことを中心にしてお話させていただきました。
ご家族様からも認知症で悩んでおられる方の相談窓口であって欲しいという想いに共感していただけました。
課題として、どのように実際に認知症に関して悩んでおられる家族様にお伝えできるか。
また来ていただくことが出来るかということがありました。
グループホームとして地域の「認知症の相談窓口」を目指していきたい。